

第2回生駒市総合計画審議会（全体会）会議録

開催日時 令和3年8月20日（金）10時30分～11時13分

開催場所 生駒市役所4階 大会議室

出席者

（委員）中川委員、久委員、高取委員、森委員、森岡委員、楠委員、浅間委員、藤尾委員、陽山委員、中山委員、村上委員

（事務局）増田市長公室長、岡村企画政策課長、片山企画政策課計画係長、竹田企画政策課員

欠席者 鐵東委員

議事内容

1 開会

2 案件

（1）総合計画進行管理検証報告書について

（2）市民満足度調査におけるライフスタイル設問を用いた解析結果について

（3）その他

3 閉会

以下、発言要旨

（1）総合計画進行管理検証報告書について

【中川会長】 案件1番目の総合計画進行管理検証報告書について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料2について説明）

【中川会長】 今、事務局から説明があったが、部会での検証時に気付かれた点、検証方法の改善点など、それぞれの部会を代表して部会長からご意見あればお願いしたい。

【高取委員】 第三部会では10分野の進捗確認を行った。健康・医療等、コロナ禍の影響を大きく受けた指標がある分野もあり、判断しづらい部分もあった。疑問点は担当課に投げかけて、その回答をもらった上で判断した。結果、自己

評価から評価を変更した分野はない。今年度は担当課も同席したことで、活発な意見交換ができた。指標の適切さについては、新たに設定された補助指標もみながら再検討したい。

【久会長代理】 第二部会で担当した大分野4は、市が重点的に取り組んでいる分野であることから平均点が高く、大分野5も含めて成果が出た分野かと思う。しかし、観光や農業など生駒市が苦手とする分野もあったため、それらについてはさらなる頑張りをお願いした。全体として検証シートの内容で感じたことは、定量的なものが多いという点であり、もっと質的なエピソードがあった方が分かりやすいことを伝えた。例えば、「住環境」分野で目指している5年後のまちは「成熟した住環境とゆとりある空間を生かした、多様な住まい方・地域での暮らし方が増えている」であるので、具体的にどんな住まい方や暮らし方が出てきているのか質的に教えてもらえればよかった。同じように、「拠点形成・地域形成」分野では、「生駒の特性や資源を活かした魅力あふれる拠点・地域形成が進んでいる」まちを目指しているの、どのような魅力がある拠点になっているのか質的に追いかけないと進捗が図れない。このように、質的な追いかけが十分できていないことを部会では指摘した。

【中川会長】 第一部会では、行政内部の自己評価が妥当かどうか点検していった。その中で、「市民協働・協創」分野と「市民活動」分野は、期待をこめて評価を下げている。全体として行政の内部評価はシビアで好感を持った。第一部会が担当した分野は、住民自治と団体自治がそれぞれ関連している関係にあると思っている。切り離して考えるのではなく、トータルコストが下がる関係性をもっと意識してほしいという印象を持った。森委員からの補足があればお願いしたい。

【森委員】 第一部会は全体としてクリティカルな視点からの意見が多く、質的な評価もできてよかったと思っている。特に、市民協働については行政よりも市民の方が実態をよく知っているの、部会の中で対話できたのはよかった。指標に引っ張られやすい行政評価と市民の質的な実感は異なる。それを行政としてどう受け止めるかが大事だと思う。行政からすると「できている」となっていることも、市民からみたら、「行政は本当にやろうと

しているのか」と映っていることもある。それを受け止めた上で次の施策展開に活かしてもらいたい。

【中川会長】 その他意見はないようなので、報告書は事務局案から修正なしでそのままとし、答申書を付して本審議会としての答申とする。

(2) 市民満足度調査におけるライフスタイル設問を用いた解析結果について

【中川会長】 案件2番目の市民満足度調査におけるライフスタイル設問を用いた解析結果について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】 (資料3について説明)

【中川会長】 今回の解析は久会長代理のご指導のもと実施したと聞いている。事務局からの説明について補足をお願いしたい。

【久会長代理】 私からは事務局からの説明をかみくだいて説明する。実際に調査で尋ねているのは15項目の質問であるが、市民は、それぞれが持っている価値観に影響されてそれらの質問に回答している。その背後にある価値観・ライフスタイルをあぶりだすのが因子分析である。結果として5つのグループが見つかった。多変量解析には曖昧さが残るのですべてではないが、この5つのグループでそれなりに説明ができています。グループの名前の付け方は難しいが、クラスター1「能動型」はすべての因子でプラスの方向にいつている。一方、クラスター5は能動型と似ていてほとんどプラスだが、「ネット活用」のみ大きくマイナスであるので、「ネットが使えない層」と解釈している。推測ではあるが、地域活動で中心になっている自治会長や役員の方たちがクラスター5に入っているのではないかと思う。クラスター1と5を合わせると55%程度であるので、生駒市は社会や地域の問題に対して能動的に捉える方が多いように感じる。この方たちは、地域の推奨度も高く、生活満足度も高いので、まずターゲットとして一緒にやっていく方向性が見えたのではないかと思う。逆にクラスター2はほとんどがマイナスになっており、「能動型」と反対の特徴になっている。その中で特に「まち・社会への関心」・「地元志向」の因子が低いので「まち・地域に関心ない層」としているが、色々な面で受け身的に生活している人ではないかと推測する。そういう意味では受動的な層だと言える。クラス

ター3を解釈すると、その日その日で日々の生活を楽しんでいる人だと推測する。またクラスター4は、「ネット活用」因子がプラスなので、若い人で、保守的な生活をしている人ではないかと推測する。この層の方たちを能動型にするには、まずは生涯学習など新しいチャレンジをしてもらえる機会を提供するところから始めればよいのではないかと思う。このように、どのような方にどのような施策を打っていくのか、どう接すればいいのか、という戦略が見えてきた。市民にはいくつかの層がある。今までアンケート調査の結果を男女別や年齢ごとの分析はしていたが、もっと価値観やライフスタイルを属性と捉えて着目した方がいい。

【中川会長】 今回の結果を総合計画の中でどのように使っていこうと事務局は考えているか。

【事務局】 今回、ライフスタイルでいくつかのカテゴリー分けがあるということを確認できた。それらのグループをイメージしながら次期計画を策定していきたいと考えている。

【久会長代理】 今、地方創生の取組で若い人に来てもらうために補助金を出す施策が多い。しかし、それらの施策に惹かれてくる層はおそらく能動型ではないと思われる。そこにターゲットをあてると、お金をつぎ込まないと満足度を上げていけない、ということになる。能動型の人たちは自分たちの活動を支えてもらうことによって満足度を上げることができる。今回の結果で、協働の施策の方向性が浮き彫りになり、また、市が力を入れて進めようとしている複合型コミュニティの事業は有効だという裏付けにもなった。

【中川会長】 いくつかの地域で市民自治協議会が立ち上がっているが、コロナ禍で総会がしづらいという実態がある。住民間のやり取りをネットで行う環境を提供していく必要性が今回の結果から見たのではないか。結果を受けて方向性を示す必要があり、そのままデータだけを伝えてはもったいない。

【事務局】 補助金の提供によって受け身の人にフォーカスする方向性を取らないことが、結果として持続的な自治体経営につながる。能動型の層が一定いることがわかったので、行政として背中を押してコミュニティビジネス等につなげていきたい。

【久会長代理】 明石市の取組は進んでおり、コミュニティ創造協会が地域活動の支援を

している。昨年4月にお試しZoom会議として、1時間くらいの井戸端会議を繰り返すことで、地域でもZoomを使ったりリモート会議の動きが出てきた。講習会よりもまず経験してもらうこと、ということで機会をつくったのは明石市が一番早かった。中学校区コミセンで講座をする際もZoom開催とすることで、中学校区全部同時に同じ話を聞くことができた。Zoomでやることにどんどん切り替わってきているので、そういった応援が必要。

【中川会長】 明石市は市民学習支援センター、男女共同参画センター、生涯学習センターを全部一体化し、指定管理者が中学校区単位で研修をしている。効果が出た1つの事例なので、生駒市は学んだ方がいい。「ネット使えない層」はお宝層だと思うので、生涯学習の対象をこの層にあてればいいのではないかと思う。自身も、住民には3層あるという理論を学び、よく使ってきた。それは、「寝に帰るだけの層」「住んでいるけど受給するだけの住民層」「まちをよくしたいと思いつける層」である。今回のクラスター分析はそれをより精密に分析して言い換えているように聞こえた。寝ている人に目覚めてもらう施策がクラスター2、3に対して必要だろうし、クラスター1はさらにアクティブになってもらう。武器を手に入れていないのがクラスター5という整理かと思う。分析した結果を政策にあてはめてほしい。前回は話題に出たが、「市民満足度調査」という名称は変えた方がいい。

【事務局】 「市民実感度調査」のようなタイトルに見直したい。

【楠委員】 分析結果は勉強になった。結果をみると関心の高い層は結構いると思った。クラスター5は、これまで地域で活動をしてきたけど高齢になってネットなどについていけない層なのかと思う。ネットを使える若い人をいかに巻き込んで関心を持ってもらうかが重要だと思う。課題としては、クラスター1の「能動型」は高齢者が多いのではないかと思う。

【事務局】 クラスターと年代のクロス集計を実施しているが、「能動型」で一番多いのは40代で23.1%、次に多いのが50代で18.7%、次いで30代が17.2%となっている。クラスター5の「ネット使えない層」は70歳以上が44.1%で最も多く、60代も18.9%となっているので、高齢層が多い実態となっている。

【中川会長】 年代の内訳データの概要があってもよかった。内部としてデータを使う際には今回口頭で説明してもらった年代別のデータも合わせて使ってほしい。

【久会長代理】 「ネット使えない層」はわるくないと思っている。そのままでもいいが、今後はネットを使えた方がよりいい、ということである。能動型では30～50代が多いということで、この層はネットでつながることにより情報交換から生まれた活動をしており、地域でされている活動とのギャップがある。このギャップを認識した上でうまくジョイントしていければいい。

【中川会長】 今の話は生駒の課題を鮮明に表しており、NPOと地元自治会とのギャップとリンクしている。案件3「その他」について事務局から連絡事項をお願いします。

【事務局】 委員の皆様の任期は来年4月30日までになるが、任期中に予定している会議は本日が最後となる。任期中に緊急に審議いただく案件が生じた場合には改めて連絡させていただくので、よろしく申し上げます。最後に中川会長にご挨拶をお願いしたい。

【中川会長】 全体会についてはZoom会議に慣れていない中、オンラインとの併用によるハイブリッド形式の開催となった。各部会で詳しく審議いただいたので、全体会も手短かに終わることができたと思っている。ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。最後に、増田市長公室長よりご挨拶申し上げます。

【増田公室長】 全体会・部会を通して委員のみなさまから頂いた提言は職員に周知していく。今年度は、研修を開催したことで評価シートの書き方の見直しができる。また、部会に担当者が出席することで、現場で担当している職員との認識共有が図れた。コロナ禍での開催であり、ご不便をおかけした点もあったと思うが、円滑な進行に感謝申し上げたい。

【中川会長】 それでは、これをもって第2回生駒市総合計画審議会全体会を閉会する。

— 了 —